

## 長崎に貢献する若者を育てる

今年から長崎大学病院の河野茂病院長が県内や院内の医療関係者と意見交換する「Change! 長崎大学病院」を連載します。第一回は大学病院改革を進める長崎大学の片峰茂学長。改革の狙いや病院が求める若者の姿などを伺いました。



Katamine Shigeru

片峰 茂（かたみね・しげる）／1950年生まれ。長崎大学医学部卒。専門はウィルス学。2008年10月より長崎大学長

### 地域に残る若手医師を増やす

**河野氏** 今、大学病院が変わろうとしている背景に大学の改革への後押しがあります。改革の真意を教えてください。

**片峰氏** いくつかあるのですが、一つは大学の経営者としての立場から必要だと考えたからです。大学病院は大学全体の収支の半分を担っており、経営基盤の安定に欠かせない存在になっています。

もう一つには大学病院は「教育」「研究」「診療」を担っています。最近では大学病院の若者が忙し

ぎで、元気がなくなっている現状を心配しておりました。若者が目を輝かせて働ける夢のある職場環境を提供したいと思っています。

最後に、病院の大きな任務として地域医療の最後の砦という位置づけがあります。ご承知の通り、日本全体の医療、とりわけ地域医療は厳しい状況です。要因の一つに、地域に残る若手医師の数が減ってきていることが挙げられます。また他大学の出身者が長崎に戻りたいと思える魅力が必要だと感じています。学長に就任したときに最大の標的はここだと思いました。

**河野氏** 昨年4月に院長を拝命すると同時に、病院の名称も「長崎大学病院」に変わりました。その意図は何でしょうか？

**片峰氏** 6年前に国立大学法人になった長崎大学は経営的に独立しました。つまり、自由に个性的な大学づくりができるようになりました。大学病院は経営を大きく左右する「診療」を担い、従来の学部と異なった経営や人事などの管理システムを導入しなければ、民間の病院や公立病院と戦えなくなりました。病院が学部に属していたときは教授会を経なければ意思決定ができず、新しいシステムを導入するのが難しく、効率が悪かったんですね。しかし、院長を大学の理事から選出することで、大学の意思をダイレクトに反映できるようになりました。

### 若手医師に魅力ある診療体制

**河野氏** 先ほど若手に元気がないと話がありましたが、新臨床研修制度により、長崎大学病院の研修医も一時落ち込みました。しかし、年々研修医の数も増えています。大学病院として魅力を増さないと、地域医療を支えることはできません。「若者に魅力のある大学病院」を実現する具体策をどうお考えでしょうか？

**片峰氏** いくつかやらないといけません、一つに若者に魅力のある診療体制をつくらないといけないと思っています。従来の第一内科や第二内科などのナンバー内科制は、患者さんにも若手の研修医にも分かりにくかった。臓器別の診療科の導入などの工夫が必要です。研修医たちの要望が強い救急医療をきちっと学べる体制を整えるなど、魅力のある診療体制に変えていかなければなりません。

もう一つは若手医師の待遇改善です。給与面でもそうですが、大学病院にいるメリットは臨床で患者さんを診ながら、将来の治療に向けた研究ができることです。もっと人を増やして、自由に研究できる時間を担保することが大切になってきます。

**河野氏** 病院では体制を整えて着々と準備しております。一方で、本学の医学部生や研修医、修練医たちに期待することは何でしょうか？

**片峰氏** 志を高く、夢を持ってもらいたいですね。また、夢を実現できるような大学病院であってほしいと願っています。病院側は待遇改善するけれども、これは夢や志を実現する「よすが」であるということ。若手医師自身がそれぞれに高い志を持って夢を実現してほしいものです。

### 医師会との連携が重要

**河野氏** 医師会の先生方には大学病院をもっと知って、もっと使ってほしいということですね。開業医の先生や長崎県内の中核病院と連携しながら、機能をしっかり果たしていきたいと思えます。大学病院というと、従来からの同門のつながりや「白い巨塔」などのイメージを持たれがちですが、地域医療の観点からどうあるべきだとお考えですか？

**片峰氏** 河野先生が言われたように、連携は欠かせないと思えます。特に医師会との連携は重要です。それぞれの病院の機能分担がとても大切になってきます。また、人材をどう供給していくかですね。適材適所で各病院に人材を派遣して、大学を中心とした人事交流が必要です。それは大学病院だけの改革では難しいので、地域との連携の中でどう構築していくかだと思います。「地域医療に貢献する医者になりたい」という若者の絶対数が増えないことには

どうしようもないのですが。

**河野氏** 国も地域医療再生を打ち出し、都道府県に医師の供給体制を整えるよう促していますが、人がいないことには若手を供給できません。最近、若い人は自分で行きたいところを決める傾向にあり、バランスよく人を配置するのが難しくなっています。

### 女性医師の力に期待

**河野氏** 学長は第2期中期計画期間中の6年間で、女性教員を3割採用する考えです。最近では医学部の3、4割が女性です。結婚して家庭に入っても、



Kohno Shigeru

河野 茂 (こうの・しげる) / 1950年生まれ。長崎大学医学部卒。専門は呼吸器内科学。2009年4月より長崎大学病院長

また医療の現場に復帰できるよう、男女共同参画という意味でも体制を少しずつ整えつつあります。

**片峰氏** 本当に女性のパワーには期待しています。

**河野氏** 昨年暮れには、あじさい保育園を拡充して、女性が働きやすい環境をつくりました。特に麻酔科や産科婦人科、眼科では職場復帰しやすく努めています。2010年は病院にとってチェンジの年にしたいものです。今年の干支は寅。実は年男なんです。

**片峰氏** 私もそうですよ。

**河野氏** では五黄の寅で改革に挑んでいきましょう！